

令和7年度 第2回甲州市学校再編審議会 会議録

I 会議概要

- 1 開催日時 令和8年3月17日(火) 19:00~21:00
- 2 開催場所 甲州市役所2階 第1会議室
- 3 出席者 青柳俊雄委員、柴田幸也委員、那須美智子委員、古屋俊明委員、
山縣重人委員、佐藤次夫委員、辻純二委員、中村英彦委員、
佐久間覚委員、雨宮康順委員、前田史華委員
<事務局職員> 教育長小林俊彦、教育総務課長清水修、教育総務担当リーダー内藤智子、
学校教育担当リーダー小林絵美、学校教育指導主事堀井ますみ、同金森淳、
教育総務担当木曾川博文
欠席者 間下伸一委員
- 4 次 第
 - 1 開会
 - 2 会長あいさつ
 - 3 教育長あいさつ
 - 4 議事
 - (1)甲州市学校再編に関する検討について
 - 1)学校維持経費(R6年度決算)について
 - 2)アンケート調査(案)について
 - 3)「令和13年度以降も13小学校を存続させることについて」
 - (2)その他
 - 5 その他
 - 6 閉会
- 5 配布資料
 - 資料1 小規模校統廃合に関する資料
 - 資料2 「山県方式」(「山県学園構想」、小規模校存続の取組)について
 - 資料3 位置図
 - 資料4 小学校運営に要する経費(R6決算)
 - 資料5 【児童用】小学校についてのアンケート(案)
 - 資料6 【保護者用】市内小学校の再編整備に関するアンケート調査について(案)
 - 資料7 グループ討議資料「令和13年度以降も13小学校を存続させることについて」

Ⅱ 会議録

1. 開会

事務局：定刻となりましたので、ただいまから第2回甲州市学校再編審議会を開会させていただきます。

2. 会長あいさつ

会 長：皆さんこんばんは。大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。前は皆さんで甲州市の小学校の現状把握という形で、共通認識がある程度持てたのかなというふうに思います。本日から課題を掘り下げていく内容になるかと思えます。時間も限られておりますので、後半にはグループ討議も用意されているということでもありますので、とにかくたくさんの方のことをいろんな立場から言葉に出していければなと思えますので、ご協力をよろしくお願い致します。

3. 教育長あいさつ

教育長：皆様こんばんは。春の到来を感じさせるような昼間ですが、朝晩はぐっと冷え込んでまいります。塩山南小の校庭の桜もほころび始めたということで、春の本格的な到来も感じています。年度末の差し迫ったお忙しい中、ここで委員の皆様方の何人かは任期が切れるという中で、第2回甲州市学校再編審議会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。青柳会長様がお話しされたように、今回はテーマを絞って、委員の皆様が考えられたことを率直に出していただきたいなというふうに思っています。形もワークショップのような形をとらせていただきましたが、ぜひよろしくお願いいたします。

私からは資料1、資料2を用意させていただきました。今日事務局から議事で話すことと関わりがあるので紹介させていただきます。3月11日の山梨日日新聞にこういった記事が載っていました。小規模校あえて存続ということでございます。これをGoogleのAIモードで調べますと、今山県方式というのが、私たちの市も含めまして、学校の再編を考えている地域の指針となるような取り組みをされており、全国的にも注目が集まっているというような記載がございました。この記事の後半のところに教育者の方が「生徒数が減るのは仕方がない。学校に多様化を認め国が小規模校をより許容する方向にしてもよいのではないか。」小規模校を認めていく方向でもよいのではないかという話をされている内容でした。山県市が取り組まれている小規模校存続の取り組みを私のほうで資料2にまとめさせていただきました。山県市は岐阜県にございまして、地図が資料3に載っておりますが、大体甲州市と似ているところもあるのかなと思えますが、北部が山岳地帯で南部が平地が広がっているというような状況でございます。1月1日現在の人口は、23,000人前後ということで現在の小学校数が8、中学校数が3、複式学級を有する学校が5校という

ことをございました。因みに、人数を調べてみましたら、山県市の小学校の合計が1,100人、中学校が612人をございます。それで、甲州市の今現在は、小学校が1,144人、中学校が639人ということで、大体甲州市と似ているというようなことをございます。ただ、お分かりのように小学校数は本市は13校をございますので、このところがちょっと違ってくるかなと感じています。それで、ここは山県方式、山県学園構想小規模校存続の取り組みをされている。具体的に何をされているか、まず、近隣の小中学校で週2、3回音楽道徳などの授業をスクールバスを活用する中で、合同授業をやっている。教科担任制を取り入れていて、小学校5、6年生は中学校へ行って英語などの授業を受けているというようなことをされています。それで、次のページに取り組みに至る経緯が書いてありますが、やはり甲州市と同じように出生数が年間100人を下回っていて、複式学級を要する学校が増加してきた経緯がございまして、山県市もこういった現状をどういうふうに改善していくのか考えられて、保護者の皆さんにアンケートを取ったところ、保護者の皆さんは1学級15人から25人の少人数学級が望ましいという声が多かったということで、それからもう一つは、学校は地域の核であるという考えで、地域コミュニティを大切にしていきたいという考え方、保護者の皆さんのお声、学校の地域コミュニティの中の存在を大切にされているということで、現行を維持されているということをございます。次のページに書いてありますが、やはり、通学移動バスも運行にはだいぶ気を遣われている、合同授業をするためにスクールバスを使ってみたり、山県市内を走っている自主運行バスを活用しているということで、今も既存路線との兼ね合いもあり時間設定や増便は慎重に議論されているというような状況をございます。今説明させていただいた部分の上の部分にいずれ、どのような方向で山県市は考えているか書いてありますが、やはりこの少人数も人口減少が進んでいく中では、いずれ義務教育学校への移行を検討しているということでもありますので、結局学校再編に向かって検討していかなければならないということを皆様方にお伝えをしたい。それから、今取り組まれていることは、本市ではすでになされてきている状況にあります。オンラインの授業交流というの、例えば大藤小、神金小、玉宮小3校で合同授業をやっています。その3校は合同で修学旅行も行っております。それから玉宮小、大藤小は今年の取り組みとして、今度中学へ入学される子供たちが、塩山北小の6年生とサントリーの方を招いて水の学習を行いました。大和小、菱山小については陸上記録会で合同参加し、お昼を取りながら親睦を図るというようなことをしています。そうした取り組みを前々からやっているというふうに私は理解しています。この少人数の課題となる子供たちの社会性をどう育むかということで山県市は甲州市と同じようにコミュニティスクールを導入しています。それで、地域の皆さんに学校運営に参画してもらい地域の皆さんと学習を進めているというようなことをございます。ですので、今現在山県方式が注目され

ているのですが、私が考えるに、これは本市では平成23年以降に取り組んできていると考えています。ですので、いずれ方向としては、山口市は学校再編を考えなければならないですし、本市も学校再編の道を皆様方をお願いして検討していただいているという理解を私は持っています。もう一つ紹介させていただきます。大藤小、神金小は教科担任制を入れています。教職員数が足りないことを補うために教科担任制をやっています。そういう状況ではございますが、やはりのしかかってくるのは、令和13年に104人という小学生の入学が差し迫ってきているというのが甲州市の現状でございますので、そんな点を今日の中であくまで参考にしていただければありがたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4. 議事

事務局：議事に入る前に、開催通知に同封させていただきました前回の会議録についてですが、ご確認いただきまして訂正などありましたら、お知らせいただきたいのですが、いかがでしょうか。

委員：異議なし

事務局：それでは、この会議録のとおり市のホームページに掲載させていただきたいと思っておりますので、ご承知おきください。それでは議事に移ります。青柳会長議事の進行をお願いします。

会長：それでは議事に入ります。(1) 甲州市学校再編に関する検討についての1) 学校維持費(R6年度決算)について事務局の説明をお願いします。

事務局：資料4をご覧ください。令和6年度の決算に基づいて数字を作らせていただいております。まず、教育費全体として、小学校費、中学校費が学校管理の部分と教育振興の部分の2つに費目として分かれています。全体では175,925,602円が執行されている状況です。また、人件費として小学校に市職員は学校司書4人と用務員1人を配置しています関係で、5人分の人件費38,272,221円、それから会計年度任用職員は、昨年度複式学級が5校8学級でありましたが、そちらの複式学級を解消するために、市の単独事業として先生方を雇用し複式学級のある学校に配置させていただいておりますので、30,447,779円。次に学校用務員です。市の職員が2人ですが、その他16校のうち14校はシルバー人材センターに委託し、シルバー人材センターから派遣していただいております。委託費として28,217,572円です。人件費全体としては、96,937,572円が令和6年度の決算であったという中身でございます。これを令和6年度末の児童数1,233人で割ると児童一

人当たりの経費として221,300円が令和6年度にはかかったという表になります。なお、この表に関しましては、校舎の改修費ですとか就学援助費は含めていません。光熱水費、電気代、電話代等を合算してまとめさせていただいた表です。説明は以上です。よろしくお願いいたします。

会 長：ご質問、ご意見等ありますでしょうか。

会 長：先ほど教育長から現在1,144人と説明がありましたが、そういうことから考えると、令和6年度と令和7年度を比べる100人近く減少していることがわかるかと思います。学校維持経費についてはよろしいですか。

委 員：質問意見なし

会 長：また、後のグループ討議の中で振り返ってもらい、そちらでもご意見をお願いします。2) アンケート調査(案)について事務局説明をお願いします。

事務局：資料5と資料6になりますのでご覧ください。前回ご案内をさせていただきましたとおり、子供さんたちと保護者の皆さんに学校の再編についてアンケートを取りたいと考えております。資料5につきましては小学生向けのアンケートです。子供さん向けのアンケートですので、自分の通っている学校も含めて全部で5問程度を考えているところです。その中で、学校の何が楽しいか、あるいは休み時間はどのように過ごしているか、また、授業を多くの友達と一緒に受けたいか、授業を他の学校と受けたいかという5つの項目について質問させていただければと考えております。すでに年度末で小学校の卒業式が19日には控えていますので、本日みなさままでご審議いただきよろしいということであれば新年度4月に入りましたら、1年生はひらがなから勉強していきますので、小学校2年生から6年生までの5学年についてアンケート調査を実施できればと考えています。次に資料6につきましては、保護者向けのアンケートになります。前回お示ししました現在の小学校の人数と、今後令和13年度までの状況、それに伴うクラス数についてお示ししました。また、現在の小規模校のメリットとデメリットについてもお示しする中で、保護者様のご意見を聞かせていただければと考えています。中身は全部で5問で、それほど時間をかけないでアンケートに回答していただければと考えております。こちらに関しても年度が切り替わりまして4月以降に行っていきたいと考えております。本日は、このアンケートの内容をご覧ください修正箇所等ございましたら、ご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

会 長：それではアンケートについて、ご意見をいただきたいと思いますが、ご質問で

も構いませんのでよろしくお願いします。まず、児童用の小学校2年生から6年生のアンケートについて、何かありますでしょうか。

委員：児童用アンケート問2と問3ですが、1つだけ選ぶのか複数選んでいいのかというところを確認したいです。

事務局：基本的には1つ選んでいただければと思っていますが、ただ、悩まれるお子さんもいるかもしれませんので、現場とも話をしながら詰めていきたいと思えます。基本的には1つを選ぶということを想定しています。

委員：問1でどの学校に通っているかという質問ですが、甲州市13校あるので、選択肢に丸をさせたほうが、子供たちが楽ではないかと思えます。問2から問5については、問2は選択肢が5つ、問3から問5については選択肢が4つとなっています。整合性を取り、選択肢を5つにするのか4つにするのか揃えたほうが良いと思えます。それから、問2の学校の何が楽しいですかという質問につきましては、あくまで学校の中でのことが回答の選択肢になっていますが、対外的な授業もあったりするので、選択肢に追加したほうが良いと思えます。

事務局：まず問3から問5までの質問、特に問4と問5につきましては、行政からのアンケートにはよく「普通」という選択があるのですが、このアンケートはあえて「普通」という選択肢を抜きました。極端に言うといいか悪いかの問いということで、全部で4つの選択肢としました。問2の学校の何が楽しいのかというところ、委員さんがおっしゃるとおり学校の外で地域の皆さんと関わることも多くなっていますので、そこも含めて選択できるようにしたいと思えます。問1で学校名を付して選択するというご意見、おっしゃるとおりと思えますのでそのように改善したいと思えます。

会長：問2で選択肢が増えれば、複数回答可など柔軟に対応していただければいいかと思えますので事務局にはよろしくお願いします。私からお願いですが、問4でもっと多くの友達と授業を受けたいですかという質問ですが、前提が小規模校の人数の少ないクラスのお子さんに聞いているような感じがしました。甲州市では、人数が多いところと言えば塩山南小ですが、南小のお子さんは、もっと、と言うとどう考えるのかなと思ったところです。ですので、もっと、は取ってしまってはどうでしょうか。多くの友達と、とするほうが普段も多くの友達という、それが楽しいんだと捉えることができ、汎用性があるといいと思えます。

事務局：おっしゃる通りと思えますので、もっと、の部分は取りたいと思えます。

委員：問3の休み時間はどのように過ごしていますかという質問ですが、選択肢のない子をイメージした時に、その他の設えがあってもいいと思いましたがいかがでしょうか。

事務局：その他の選択肢をつけたときに、子供さんたちが具体的に何かを書くとなる難しいところがあるかと思いますが、事務局で検討させていただきます。

会長：同じことが問2と問3にも言えると思いますので、その部分も含め検討をお願いします。ただ、選択肢があまりにも増えるとお子さんが大変な部分もあったり、非常に広がってしまうこともあるので、それを考えながら5問程度でこのような内容をベースに作るのがいいのかと思います。次に保護者のアンケートについて、ご質問ご意見いかがでしょうか。

会長：質問ですが、メリットデメリットの表がありますがこの表は文科省が出しているそのものでしょうか。

事務局：文科省が公表しているものそのままです。

会長：イメージとして、メリットのボリュームとデメリットのボリュームに差があると感じているところもあるのですが、それぞれの文字の量に囚われてしまうこともありますので、そのあたりも検討してください。

会長：それでは3)のグループ討議へ移ります。グループ討議の進め方等について事務局をお願いします。

事務局：資料7をご覧ください。冒頭教育長の説明にもありましたが、岐阜県山県市の状況を踏まえ、甲州市13小学校を存続させることについてグループ討議をしていきたいと思います。この中で存続させることのメリットデメリットがあると思いますので、行政、子供、保護者、地域の4つの視点からそれぞれご記入をお願いします。事務局担当職員も各グループに入りますので、グループごとにまとめていただき、さらに全体で討議を深めていただければと考えているところです。グループ発表については1グループ3分程度を予定しています。全体討議を20分程度行いまとめていきたいと思っています。

会長：それでは各グループで進めてください。よろしくをお願いします。

(グループ討議 30分)

事務局：それではグループごとに出た意見について、発表していただければと思います。
まずAグループからお願いします。

委員：Aグループではいろいろな意見を共有できたと思っています。[子供]のところ
で多く出てきた意見、メリットとしては自宅の近くの学校に通える安心感、登
下校は歩いて登下校が基本なのではないかという意見が出ました。ただ、昨今
危険なところもあるのでそのあたりは考えていかないとならないという意見も
ありました。[保護者]で出てきたのは、メリットとして協力体制が取りやすい、
[地域]の部分では、地域の行事の拠点となるという意見が出ました。デメリ
ットとしても意見はあったのですが、全体としてまとめていくと、今学んでい
る子供たちを中心に考えていくことが大切だということ、それから、いろい
ろな立場の方がいますので、就学以前のご家庭という話も出てきたので、そう
いったご家庭とも話をしながら進めていった方がよいのではないかという意見
も出ました。デメリットについては、記録にまとめてありますのでそちらを見て
いただければと思います。

事務局：ありがとうございました。次にBグループお願いします。

委員：まず[子供]のメリットとしまして、きめ細やかな学習指導や生活指導が充実
する、子供は自分のことを見てもらえる有用感を持つことができる、横のつな
がりを持つ、通学が徒歩で可能になる。保護者は子供1人にかかる時間が
増え、交流により情報交換が豊かになり、PTA活動の維持にもつながる。デメ
リットですが、交流期間の不足から社会性の習得に課題が生じてしまい議論の
停滞や、能力の固定化など集団活動の非効率性が見られるかもしれないとい
う意見もありました。登下校の安全性にも不安が伴ってくるというのがデメリ
ットです。次に[保護者]のメリットです。保護者同士の密な連絡により、顔の
見える関係性を築くことができるということです。デメリットは、親同士の人
間関係が悪化した場合に逃げ場がなくなってしまうということです。PTA活
動の継続も困難になる可能性が出てきます。[地域]ですがメリットとしまして、
学校を地域の拠点として維持することで、コミュニティへの意識が強化されま
す。地域の歴史や文化の継承にもつながります。また、子供の声が地域の喜び
となり、地域行事の減少を妨げ、コミュニティの活力を保つことができると
いう意見が出ました。

事務局：ありがとうございました。次にCグループお願いします。

委員：まず[子供]のメリットですが、通学が近いのでしやすいということ、安全面

も担保できるということ、人数が少ないので活躍の場が多い、活躍できる回数が多い、地域の特色を生かした学習ができるということがメリットです。デメリットとしては人間関係が固定され逃げ場を失うことがあるということ、活動の幅がある程度制限されてしまうということ、集団での活動がしにくいので、集団面での力が付きにくいこともある、加えて多様性を育むことが難しいことがあげられました。[保護者]については、交流や繋がりが持ちやすいということで、よく知っている間柄なので意見も言いやすいということも出ました。デメリットとしては、同じ人がいろいろな役をしなければならない、なり手がいないなど人数的な面でのデメリットが出ました。[地域]ですが、地域との繋がりがあり、子供たちの声や活動が地域の活性化に繋がるということがメリットとして出ました。デメリットはありませんでした。

事務局：ありがとうございました。ここで全体のまとめをしたいと思います。グループごとにまとめていただいた内容について、生成AIでまとめさせていただきました。まず[子供]の部分、メリットとして、他学年との交流が密になり安心感を持って学校生活を送れるようになること。通学時間が短縮され安全な道での徒歩通学が可能となること、きめ細かな指導で子供一人一人に目をかける時間が増えること、全員が顔見知りとなり、いじめや不登校の発生を抑えられること、様々な役割を経験し保護者同士の交流も豊かになること。デメリットとして、人間関係が固定され不都合が生じた際の逃げ場が少ない、多様な考えに触れる機会が減り、集団としての経験が不足しがちなこと、多様な学びへの負担が増加し、困難を乗り越える力の育成が少ないこと、集団登校の班が組めないなど、登下校時の安全に不安が伴うこと、少人数により集団活動が難しく、クラブ活動の選択肢が減少すること、といったところがまとめられたところです。次に[保護者]のメリットです。保護者同士で顔の見える関係が築けて、交流の機会が増えること、保護者の横のつながりが保たれ協力体制が取りやすくなること、近くの学校という安心感があり、地域の方からも支援を受けやすいこと、きめ細かな学習指導、生活指導と通学負担が軽減されること、消極的な人間も活動に参加しやすい状況が生まれることがメリットとしてまとめられました。デメリットとして、PTA活動などあらゆる活動の負担が増えること、役職が何度も回ってくることで、学校への関わりが多くなることで、特に共働き世帯の負担が増加すること、親同士の人間関係がこじれた場合、逃げ場がなくなりPTA活動の継続が困難になる可能性があること、教育に関わる費用負担が大きくなること、役員のなり手不足が生じること、PTA活動が希薄化し維持が困難になる可能性があることがデメリットとしてまとめられています。次に[地域]のメリットです。地域行事の継続を支援し、地域の活性化につながることで、子供の声が地域の喜びとなり、地域を明るくすること、学校は地域の核として、コミュニティの意識を強化すること、地域の歴史や文化を継承し、

伝統を守ることが可能であること、学校単位の地域行事が存続し、コミュニティの活力が保てることがメリットとしてあげられています。デメリットとして、地域行事や伝統（大和の巫女の舞など）の継続・継承が難しくなってくること、中学校統合の影響で、地域に戻る若い世帯が少なくなること、子供が少なくなること、伝統行事を通じた地域への愛着の醸成が困難になる可能性があること、実際に統合してみないと分からない影響があることも指摘されています。以上が生成AIでまとめたものです、今一度ご確認いただき、皆さんで共有できればと思いますのでよろしくお願いいたします。

会長：まとめをありがとうございました。それぞれの項目で意見が出たわけですが、まとめを聞いてお考えなどがあればお願いします。

委員：先ほどこのグループは、[地域]の項目ではデメリットはないと申したのですが、ここのデメリットに載っているのは、統合された場合、再編された場合のデメリットなのでそういった意味ではこのグループも意見はありました。13校存続させることのデメリットがそこに載っているわけではないと感じました。

会長：存続させるにしても様々な課題はあるなど、統合の方向性を考えてみてもそれには課題が多くあるということ、今日掘り下げた中で、どちらにしても課題が浮かび上がってきたのではないかと思います。ただAグループでも出たように、今生活している児童、将来小学校に入学するであろう児童、それを後押しする保護者の皆さんのご意見を幅広く取った中で、2度3度議論していくことが大事だと思います。課題は掘り下げることができたと思うので、今日ご提示のあったアンケートを取り、アンケートを基にさらに考えていければと思います。

教育長：長時間にわたり本当に丁寧に、各班で話し合いをしていただいて、こうして、それぞれの班のお考えを示していただきありがとうございます。それで、私の冒頭の説明が足りなかったと感じているところがあります。私は山県市がやっていることが、甲州市が小規模校を維持していく方向性でこれまで取り組んできた、同じような取り組みをしてきたということを紹介させていただいたのですが、私の説明が足りなかったのは、小規模校を続けてきたのですが、複式学級をこれまで甲州市も山県市も続けてきたということです。本来なら、児童数が1学年2人とか3人ですと県費の教職員が配置されませんので2つの学年で一緒になってやっていく、それだと、2つの学年を1人で見るとは到底無理なんです。たとえ2人であろうと3人であろうと無理なんです。だから、甲州市はどうしてきたかというと、市で市の単独の教職員を配置してきました。本来は2つの学年で1人しかいない教員のところ、2人の教員が学習に携わってきた、

これを今まで続けてきたということの説明が足りませんでした。それでもやはり、なかなか子供たちの切磋琢磨ですとか、社会性を育てていくということが、現実として難しいという課題も直面している状況です。そのところの説明が足りませんでしたので、今度アンケートを取るときにそういったことも踏まえる中で、皆さんと一緒に話し合いができたらいいかと思ひ付け加えをさせていただきます。

委員：塩山中学校と塩山北中学校が統合して、統合した塩山北中の子供たちは今どんな心境なのでしょう。

事務局：9月になりますが、塩山中の全学年を対象に、今の塩山中についてのアンケートを取りました。その中でいただいた意見要望を踏まえ、学校が1つになったことに関しては、多くの仲間が増えたという話もありました。学校ごと勉強の方法も違うため、戸惑った生徒さんもいらっしゃいましたが、先生方と話をする中で今の塩山中学校のやり方もご承知いただいたうえで、慣れていらっしゃるかなと思っております。前回会議でもお話ししましたが、制服に関してもブレザータイプのものを導入し、同じ学びの方向という形を取らせていただきました。部活動等さまざまな活動も一緒にやっておりますので、元塩山中や元塩山北中という考え方はできていないと思っております。また、4月からスクールバスの運行も始まりました。当初は、運行時刻のズレなどでバスに乗れないなどのお話もいただきましたが、1週間程度で解消しそれ以外は保護者からの要望やクレームはいただいている状況です。

会長：それでは、(1)は終了したいと思います。(2)その他について事務局お願いします。

事務局：事務局からは特にございません。

会長：次回の計画等ありましたら説明をお願いします。

事務局：次回ですが、今日お集りの皆様方、ここで任期を迎える方もいらっしゃいます。各代表の会の役員が決定したところで、改めて会を開かせていただければと考えています。5月の中旬頃PTAの役員が決定するところからも把握しておりますので、それ以降にこの会を改めて開かせていただきたいと思ひます。その際には、子供たちそれから保護者へのアンケートがおそらく出さうかと思ひますので、その結果等も踏まえ次回の会議を開催したいと思っております。よろしくをお願いします。

会 長：それでは議事を閉じたいと思います。ご協力ありがとうございました。

事務局：会長には議事の進行ありがとうございました。委員の皆様には活発な意見交換を行っていただきありがとうございました。

5. その他

事務局：その他に入ります。何かございますでしょうか。

委 員：役員が変わるということで、退任の時期の案内はありますか。

事務局：皆さまには各会の代表としてご参加いただいています。そちらの会の役が終了する時点でこの審議会の役も終わりになりますので、改めて通知等のご用意はございませんのでご理解いただければと思います。

6. 閉会

事務局：古屋俊明副会長より閉会のことばをお願いいたします。

副会長：今日は活発な意見ありがとうございました。次回は5月以降になる予定ですが、委員として残られる方は、また積極的によろしくお願ひしたいと思います。お疲れ様でした。